



十小だより

令和 5 年 6 月 1 日
第 3 号
府中市立府中第十小学校

「ふれあい月間」に意識したいこと

校長 草刈 あずさ

東京都の梅雨入りの時期が近づいてきました。十小の共育本部としてボランティアで学校の周りの花壇のお世話をしてくださっていますが、中でも、あじさいの美しさが目を引く季節となりました。

さて、6月はふれあい月間として、いじめの防止などに重点的に取り組んでまいります。5月29日の全校朝会では、校長講話として、以下のようなことを話しました。

人は、自分と違ったところがあるとすぐには受け入れられなかったり、誰かが内緒話をしていると、自分の悪口を言われているように感じたりすることがあります。これは、大人でも同じです。そして、こういったこともいじめにもつながるのです。ですから、誰もが、いじめの加害者になったり、被害者であると感じたりすることがあると言えます。

では、いじめにつながらないためには、どうしたらいいのか。

それは、いい言葉を日頃からかけあうことです。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ごめんね」「ありがとう」。この5つの言葉がいつでも、当たり前と言える十小であれば、小さいいじめもなくなると思います。いじめがあったら、大人に相談するのはもちろんですが、何よりも、自分たちでいじめのない、いい関係の十小をつくるのが大切です。校長先生も、「こんにちは」とあいさつされると、とてもうれしい気持ちになります。今週も、気持ちよいあいさつ、言葉のやりとりをしていきましょう。

廊下を歩いていると「こんにちは」と子どもたちがあいさつをしてくれます。本当に気持ちのよいかかわりのできる子どもたちです。また、先週、1年生の遠足の際には、小さな傷に絆創膏を貼ろうとしている子に付き添っていた子が、絆創膏のゴミを受け取り、「校長先生、このゴミは、私が持って帰って、家のゴミ箱に捨てます。」と言って、リュックサックにゴミをしまっていました。あまりに素晴らしい態度に、心から感激したというできごとでした。

相手を思って行動することは、相手や周りにいる人を優しい気持ちにさせてくれます。普段から、お互いにあいさつをしたり、思いやりのある言葉をかけあったりしていたら、何かいやなことがあっても、すぐに和解できることと思います。いじめで苦しむ子を出さないためには、未然に防ぐことが大切です。

6月は、子どもだけでなく、大人も、いい言葉かけと良好な関係性を意識して生活するようにしてみませんか。